県南エリア
Prefecture South Area

くまもとの風土と文学
Climate and Literature of Kumamoto

天草は旅人を魅了します。与謝野寛、北原白秋、木下杢太郎、吉井勇、平野万里の「五足の靴」、上林暁の「天草土産」、林芙美子の「天草灘」などが書かれました。天草生まれの作家では島一春がいます。
不知火海は豊潤な内海で、宇土半島、八代、芦北・水俣、天草に抱かれています。干拓地が広がる八代は城下町としても栄えました。そんな風情を愛し、内田百閒が松浜軒に幾度も泊まり、「阿房列車」に登場させました。

人吉藩の領地だった人吉・球磨は独特な歴史風土をつちかっています。「旅愁」「故郷の廃家」の作詞家犬童球渓、児童文学者でもあった小山勝清、俳人上村占魚を生みました。薩摩との国境、水俣は徳富蘇峰・蘆花のふるさとです。淵上毛銭、谷川健一・雁兄弟、石牟礼道子と世に知られる文学者を生んできました。

© くまもと文学・歴史館